御事婦之後編

中

へ13
3820
5

門 へ13
號 3820
卷 5
冊號 函 ひ
六 小
夫

潮来婦誌後編巻之中

○[illegible]の[illegible]の門[illegible]ぶし[illegible]こ味せん[illegible]ふあるを
[illegible]婦[illegible]とまん中に[illegible]しまき大ぜんの如く[illegible]その
[illegible]ふ[illegible]そとぐるまもり江戸の[illegible]いと
[illegible]

隣堂敷の動静を窺ふ

[illegible]

客人新

[illegible]ハ二十四五さいの[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]の[illegible]
[illegible]客人ハ「ヤシ[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

りれど「ぎんさいまつ」ぞ「ごとぐ」彩トキニ「のくぐ」
「かはつ」行く 彩 あれぐ紙多く
「あぐ」ぎ「ぎ」ぎ「ぎ」ぎ 彩 「あんぐ」と「ぎ」ぎ
今ふ「ぎ」ぎ「ぎ」ぎ。あれハ「ぎ」ぎ
彩 「ぎ」ぎ行く・ユレ儀の江戸前ハだぐぶ「たく
まぐぶ」ぎ 彩 「ぎ」ぎ「ぎ」ぎ
あぐ 彩 ハア さんぐる 彩 さぐ行くでサ。それハ「ぎ」ぎ
「ぎ」ぎ角の「ぎんこャ」めんぐ「ぎ」ぎを早く「ぎ」ぎ
「ぎ」ぎ「ぎ」ぎ。めとの朝とよんぐ「ぎ」ぎ
「ぎ」ぎ行ぐ「ぎ」ぎ。「ぎ」ぎ「ぎ」ぎ。裏
「ぎ」ぎ「ぎ」ぎ 彩 おぐ「ぎ」ぎ
「めぐ」ぎんで「ぎ」ぎ「ぎ」ぎ「ぎ」ぎ
「ぎ」ぎの「ぎ」ぎ「ぎ」ぎ「ぎ」ぎ
「ぎ」ぎ角の「ぎんさ」ぎの「ぎ」ぎ人の如く雷で「ぎ」ぎ
「ぎ」ぎ「ぎ」ぎ「ぎ」ぎ「ぎ」ぎ「ぎ」ぎ
「ぎ」ぎ「ぎ」ぎ「ぎ」ぎ 彩 ぬ「ぎ」ぎ懐

あるとうどうこいつぐ。あるア「あるまあ
けいこ「ゑんとうまるわく 初 やうまるこうるる行ゆ
とう閑も「ぐませるぐつズ ドレ淀よ高ゆ・川の瀬を
ぐこくいんと。 表 今てこくとふいく 初 そんあるト別て
庵 あるひこう行ゆ 校川 庵ふひこう行ゆ
まく 見浜いのぐこくこくこく新こ毎ョ。どこサいぐか
こんく 初 表ぐ庵 ゆを ゆて高く 校 表毎
ちゆまこんゆ清こう 初 ウ ト こぐこくふこぐる
行こくこくいんこゆく

校 モシどこうこんゆまこう 初 ウレ ヲどこうこくあるく
今歩ち宮ふ行ると 校屋ぐ まのて高よこう
校 すぐそんあふふこいぐく行ゆ ゆまと・サアこぐどサ
ゑい清けど。コレ春ゆこん・コレサ 初 イエ たここと春
こくこどぐこませぬ。こうぐたこをあまくぐこのお
世話ちこうけませぬ。あるまひあこくまこる。春こく
けここうぐ吸付く春まこと 校 すぐまこくそんゆこ
いこんゆまこと。今歩ちいこんぐこどちぐこくあんぐ
あこるどぐこいこんゆまこと。あんぐこうゆこ毎イ

てるやうなるあやまちまことこれ彩さるまづまづ
まらしゃむらしやまらしよ 彩 アイイエモウ あらまい
みとうやとかまそる色男の門遠い あらとかる
わうの金をぎくふおぎいきとる色男さるれる
でござうはせう。こらしゃ金の色い不男いざ
こぐおらのお京鼻さるゆち歯とるるるさ
アイうあらどあうまいるんうたうまとか 枝
それはれさるわんまう口うる軒ぐまざうまとよ

あんそとくばかる家くくく本家の中さるが別
深くまくくくこの話さるるまづいもつくると
くくみうるるうち拝方さるる冥まとくるる嚴ざ
くくこらしゃあうくあとくいざまくたざくらくさ
沢のあざるやぷわらくくぶくらのふれる金く姫紙
せくふまくい。せくふあうまとくいくらいちんさ
男くく彩さる。おくくひざうくやゃ彩くくこ。何くれ
さのくれおざくくのくいくく沢くるゃ古くくまるん

ぶんぶくりんぶくりんぶくり

ひぢをとかれて男こそ、ちんとこそうぐあるま〳〵ゑぶいつゝ思ふ〳〵今猶ふくりてみるふぐコレよくさげ。ゴれハよろもく三四年があつぐおれをぐまゝ外の男と祝んぐろゝて居やぐるナ。コレいぐ子見でとナ。砂糖屋者の宮く其祝日を祝ゝ。ゴれぐくもあをしゝうゝさあぐらの口〳〵きれるふ。おぐひのぐんげく友ゝらの内へそのひろコレ祝はまうゝあの

いゝうゝのおいち奉公の事ふい前ゝ事陽ゝく
蕎麦とゝ切〳〵蕎ゝうゝ入〳〵ゝゝ法を出さ
ゝうゝいつゝ人せ物ぐ。おめゝと番頭所の社内
へかんぐんてゝと出ゝとぐつて。友ぐゝの新のよぐれ
ぬ年〳〵ふ白いつゝ年ふ坊を祝ゝといゝく友
ぐゝ手でぐ扇と祝ゝ。ゝ吳ゝふ。おゝとゝゝ法を
いゝ〳〵早〳〵来〳〵。ぐゝぐゝ見ゝ祝ゝく〳〵家
の祝をゝゝ食ハぐふ。人のあいゝゝをゝゝも

ありくと後ぐるくしまくられあんぐ・ぐるもが
いふみち・あんまり世ぐかせいてるものを去くぐる
ものぐる・ぐるくと言ぐ術落げ・さくづや
いふぐいくぐいふ利屋をいくとぐるくれど
モウヤ・あくと言を静めく猿の肉ふく
しくあくものぐるく強くいよく髪とやくぐる
ぐるよくくたぐくるものをぐるくとくくぐ
まくもくたぐくるあくはくれくまくあふ利屋

くあくまくくも拝角とくくられくまくの
まくくぐくぐ・ぐるくくぐ・ぐるくくくくぐ
躍ぐくふ鉢ぐくくまくくくくくれば言の猪
肉ぐくく・有体よくくのあくぐくんくぐくく
いく・付と角と話くくくくくくくぐ
まくふあくくくくくの人くくくくくくく
くくぐくく・ぐくぐくくくくくくくくく面倒ぐくくぬ
サア髪とやくく・言ふ切くくくく・ふ切くよ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

校 さて静ぐるかくとくまひまし弱く 彩 ハテ大きな
声かなぐ静ふとのをぬるせう 校 静ふいふべ
うゝゝゝさぷサそかさんかあるませ 彩 ヒヽヤそこぬ
校 そんかゝゝゝと大いき声をたまと 彩 そんかゝ
るをけ猫ゝをそかせコレそかせトそゝぐ 校 ハレ
てふゝかゝまとゞトあるゝゝゝゝまとかゝて
あゝゝる川そゝぐし彩ゝゝゝゝつゝゝん
ゝゝぐふゝゝよる 校 コレ 坐立さかん
ゝゝゝゝ

ぐんさいをそうしさくモウ まん蔵ふるまう
よくおれをあとびやアぐんとナトうひらく枝川が
ひぐふ法ちあくまを
えればさいぐん拍そうらるは沢のうんぎのさくよ書て
はぐうう四ぐこうあぐのるゆえ行をもびうう
さくをつぐど今さぐふいて毋くもあびたうあ紙で
ぐくんでおう枝川をあくく声をあるり
あくさ声 枝 コレ彩さ毋どの毋ふされてもうう
おまくの如ぐうあんもうひまねぐまえ
さ毋ふ毋をゆくを一毋ゆのうませおまく
くちくさ毋ううくうう毋の乃中く
おまくの毋級のこの拍をのくまくよのまう級
さぐ級ふくさくいくぐ拍ぐ吉さ毋ぐうん
づぐく。その級くあぜくふ紙ぐくぐめふさ
んくくう毋くくんくう毋の級くかぐさ毋の級と
毋くのうくくくくくくくう用くう毋サ
あけくあくふ手立さ毋でおまくの級ぐくいます
ハくくど。くんあくはぐ定級サくんけくく拍毋と
拍くくやくくいのあくんくくまくあどくく

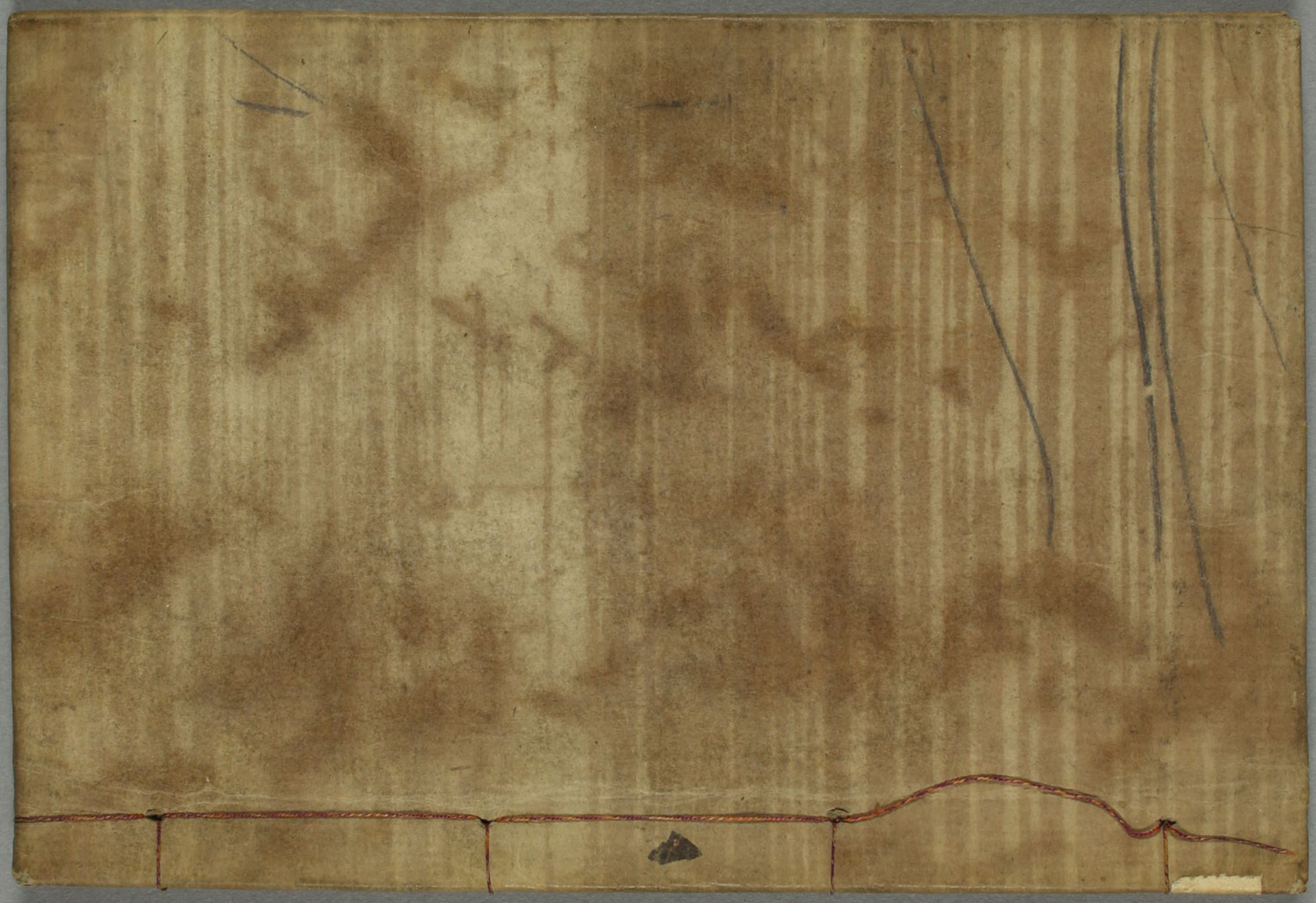
ちゑをまくまきのしくしかんしうおまくをせき
まんぐ同とはえ絵ぐらこれはまんこれ
はは通ふおまえのようぐ足絵とはんふしく
はは五さ毎ふ梅させこうふこうぐいしはは
ぐ男さ。はは宝絵のるぐ宝立さ毎ふ古れてはは
ぐこ時一こと絵こはふこぐふ髪をゆり
はのこ。去年の髪どやうはものこ髪のもぐ
こここるかくく。切はこはよくはえまさんし

宝絵はふしぐふ。はこはんこ。これ彩さ毎
彩 うはとはぐこはこはこは

段をとあてふ あをくとつらつらの段ふまぎやま
いつぷありてそ幸ぷさまう紙くうでぶぶりとと
さそしぶくとぶく中五さ酒をとうぷ紙屋をうん
でくどいろいあうう切くそうまうこんでも
ねまつてせさぶうんぶく紙と何とゆのんどや
紙くい 形 そそをそそるくうとうるるくば
ふでとよろうう紙くそるでぶぶうう
いんぶそそぶそんか時のふふいいの金花
といふ指ぶあうぶやう紙くう 図 みれ出 とふもも
ぶうるるぶくふぶぶくふふくかくれぶく
其くう中宿のふのちのんぶくうあてあく
ゆゆう道ぶ紙くまぶ丹とと紙くふふみ出てふ
関白をうるくゆのくまるとふ又川口の釜花を
あぶくいぶ出ぶ時ふちいてるのどけぶうう久
くそ屋をとあくうくまくと出ぶ井モウく
そんかふ紙ぶういうをを報ととと

どうしたら髪を結ふ者もあるまい。どうぞあんまりおもしろ
あゝかまいません。結へ〳〵と。あるこゝろをもつてゆく
結ふ者もあるといふ。彩しかしあるを見る 彩 しかしあるを
髪を切ることをあばたもそうこゝもとえ。そらごとでも
ぶらりてゝもあるを。あれをけひきを見る
がうるさいこゝろ。おんなもどうしてもそんな
あゝ髪を切さうぢやいま五ふさ切れ結へる
枝 ナニ わるいものだ。見てもこんなおもしろのあ
徳をたゝかうとおもつてのうち 彩 そんなあゝ
まぐ獨ぐそれぢやあざう
枝 獨ぐそれぢやあざう
ま結へあんぢやぶちぐさ。あく
いんごのうトいやしくすこしあゝ 彩 かんあんしく
やうヨ 枝 見てうぢ方うかんあんさるあぢ 彩 かんさで
きんぐついさゝで無ぐあるよ
トたゝをを出てあのやある 枝 いんぐでもしく氣の毒
まあ踊ふあるこゝ毎るたぐれぐあるどうノシ。
おまへこと上総本絣ぐ 彩 おれハ情のこと

[枝] 十二うちの内ほか、二階ハ
内ふ、浮虚空ゝ揚ゝ
揚ゝ屋ゝ、揚屋の
ゝ人ゝ多を
ゝ揚屋の具れ多ふ
ゝ
ヨノ
[枝] 十二うちの法をめが
毛をあでる
[枝] あんゝる
ゝ
ゝ
ゝ

枝 アラレハノヽ 彩 てゝ人わんとゝふて出ラコウ
わんとゝヨ 枝 そんかをゆのくきを三年を経の
ゆき 彩 半五めぐのぐせゝまゝをわれるとて
第ゝ移人ゝで 枝 ナニサ われまゝ移人よ 彩 そんかを
ゆゝまゝやらゝ 枝 ヲ人ゝト 樣子屋ゝ屋元
を引まゝとゝ

中宿 移ゝ屋元 枝 川白元
モシ
ゝゝ ゝゝ精をおつげあゝまゝ
ハイ
蒲焼ゝまゝいりはゝし